

## 「年報 村落社会研究 31号」の編集について

年報編集責任者 北原淳

『年報 村落社会研究 31号』（1995年大会当日発行）の編集方針・企画は1994年12月10日の東京での年報編集委員会での討議をへて以下のように決定し、執筆者各位に連絡し、了承をいただきました。特に執筆者会員の方は、早めに執筆にとりかかり提出締め切り日を厳守していただきたいと思います。なお別掲コラム（7頁）のように、例年どおり分野別研究動向の執筆者の方に、会員各位の業績をお送りください。

### 1. 編集方針

1994年大会のセッションV「農業と女性：労働と意識の変化をめぐって」を中心にして、特集を組む。特集の問題関心は、熊谷（松田）会員のセッションV冒頭の発言の趣旨をふまえる。農業、農村、農家においては、「生産」と「生活」とが未分離であるにもかかわらず、これまで、戦後の農村近代化の議論もふくめて、女性の役割の議論の重点は「生活」にあり、「生産」における役割は注目されず、従属的地位にあった。最近、農業労働力の60%が女性であることが注目されるようになったが、（1）家族農業経営を前提とする場合、果たしてこれは女性の個の自立の条件となるのか、（2）もし、ならないとすれば、それはどのような問題点をもつのか、（3）さらに、女性の個の自立のために何が必要なのか、（4）そして、それを究極まで押し進めると、家族農業経営それ自体を否定しはしないか。このような問題関心にもとづいて、歴史と現状の双方から、農村女性の労働と意識の実態をふまえて、特集を組みたい。

### 2. 執筆者

〔共通テーマ論文〕（論文題目は編集上の仮題です）

1. 熊谷（松田）苑子「家族農業における女性労働の役割評価とその意義」
2. 東 敏雄「戦前期の勤労的農民経営における『個人分析』と女性」
3. 細谷 昂「農地改革後的小農経営における家と女性」
4. 新保 满「離農を促す若妻層の意識と行動」
5. 市田知子「生活改良普及事業と女性」
6. 中道仁美「農村女性研究の動向と展開」

〔資料紹介〕

7. 岩崎由美子「農村における女性起業と可能性」

〔分野別研究動向〕

史学・経済史学	長谷部弘
経済学・農業経済学	大川健嗣
社会学・農村社会学	藤井 勝
外国研究（米国）	立川雅司

〔大会記事〕

編集委員長

### 3. スケジュール

刊行は1995年大会当日。論文、資料紹介は5月連休明けに締め切り、6月中に熊谷（松田）会員が提出原稿内容を検討のうえ巻頭論文執筆。研究動向は6月末の締め切りとする。7月中に出版社にもちこみ完了、のベース。